

## 日本語学習者の望む敬語教育

—アンケート調査から—

遠藤織枝

### What kind of instruction to the learners of Japanese want to have on the Japanese honorifics ?

Orie Endo

The Japanese honorific system is considered as one of the most incomprehensible features for the learners of Japanese. A survey has been conducted regarding two points, what aspect of the system do the learners feel difficult? what kind of instruction do they think they need to overcome the difficulties?

The following paper reports on the results of the questionnaire addressed to the learners in the survey.

最近、日本語の敬語についての外国人のコメントがよくみられるようになった。

「日本語を学ぶ過程の中で、敬語が一番難しかった。ちゃんと習いましたから、読めば分かりますよ。(中略)でも、敬語を話すのは難しかったですね。自然に使えるようになるには、何年もかかりました。…」(ピーター・バラカン『日本語』88, 1, P52)「本当に難しいのは敬語の言葉遣い。漢字に自信があるから最初は簡単だと思うんですが、敬語が出てくるととて

も苦しくなります。」(中国帰国者談『日本語』89. 10, P93)「日本に来て、日本語はむずかしいと改めて感じました。とくに日本人が『いただく』『させていただく』という言葉をよく使うのには驚きました。『私は…する』という表現は日本の社会ではあまり歓迎されないようです」(留学生のスピーチ例『毎日新聞』87. 3. 14夕刊)

こうした敬語についてのいろいろな考え方を、単なる個々人の印象や感想としてでなく、質的量的に客観性のあるものとしてとらえたいと考え、アンケート調査を試みた。

対象は東京近辺に住む留学生103人と国際交流基金の短期研修で来日した日本語教師31人の計134人である。敬語についての意識を問うためであるから、敬語に関する教育や指導をすでに受けた人、そして、アンケート用紙の日本語が読めて理解できる人ということで、日本語教育のレベルで中級以上の人に限った。

母語別、学習歴別の分布は表1のとおりである。

アンケートの文面を以下に掲げる。(質問4'は日本語の教師をしている人にだけ答えを求めた)

表1 母語別、学歴別分布

母語別分布

中国語	67人	オランダ語	1人
韓国語	24人	グジャラート語	1人
インドネシア語	15人	デンマーク語	1人
マレー語	7人	フランス語	1人
タイ語	3人	ペルシア語	1人
英・米語	8人	ベンガル語	1人
ポルトガル語	4人	計	134人

学習歴分布

半年～1年	16人
1～2年	43人
2～3年	21人
3年以上	54人
計	134人

敬語についてのアンケート調査

日本語教育のなかでの敬語の扱いかたについて研究しております。皆さんのひごろの経験から、日本語の敬語についてのお考えをおきかせください。

質問1 日本語の中で敬語は特に難しいという意見がありますが、これについてどう思いますか。(一つ選んでください)

- a 特に難しいと思う。
- b やや(少し)難しいと思う。
- c あまり難しいと思わない。
- d どちらとも思わない。

質問2 上の質問で難しいと答えた方にお尋ねします。どういう点が難しいと思いますか。(いくつでも選んでくださってかまいません)

- a 「いらっしゃる・ご意見」など相手に対する尊敬語を使うこと。
- b 「まいります・お持ちします」など自分を謙そんする謙譲語を使うこと。
- c 相手や場合によって使い分けること。
- d 相手との関係がわからないこと。
- e その他( )

質問3 日本語の敬語について、いろいろな意見があります。あなたはど

うお考えでしょうか。(いくつでも)

- a 敬語はもっと簡単にした方がいい。
- b 敬語を日本人も正しく使い分けた方がいい。
- c 敬語は日本語の(日本人の)美点だから、もっと大切にした方がいい。
- d 敬語は日本人にも難しいのだから、外国人には要求しない方がいい。
- e 敬語よりも、話の内容の方が大切だから、敬語をあまりうるさくいわない方がいい。
- f 敬語を上手に使えなくても、そのことで人を評価しない方がいい。
- g その他( )

質問4 日本語を教わる時の敬語について、どうお考えですか。(いくつでも)

- a 失礼にならない程度の簡単な敬語だけ教わりたい。
- b できるだけくわしく、日本人と同じように使い分けられるまで教わりたい。
- c 敬語の形や種類をたくさん習っても実際には使えないから、必要なものだけ選んで教えてほしい。
- d 敬語にあまり時間をかけないで、新しい文型・言葉・漢字などを教える方に時間をかけてほしい。
- e その他( )

質問4' 日本語を教える時の敬語についてどうお考えですか。(いくつでも)

- a 失礼にならない程度の簡単な敬語だけ教えたい。
- b できるだけくわしく、日本人と同じように使い分けられるまで教えたい。
- c 敬語の形や種類をたくさん教えても実際には使えないから、

必要なものだけ選んで教えたい。

- d 敬語にあまり時間をかけないで、新しい文型・言葉・漢字などを教えるのに時間をかけたい。
- e その他 ( )

質問5 あなたの今までの経験で、敬語がうまく使えなくて失敗したり、恥ずかしい思いをした例があったら、できるだけ具体的に書いてください。

- 1、
- 2、
- 3、

質問6 敬語をうまく使えてよかったと思う経験があったら、できるだけ具体的に書いてください。

- 1、
- 2、
- 3、

質問7 あなたのことをおきかせください。

国籍

母国語

日本語の学習歴

(半年～一年・一年～二年・二年～三年・三年以上)

専門・専攻 (文化系・理科系)

性別 (男性・女性)

---

以下、質問1から順に回答数・全体比を示していく。

質問1 日本語の中で敬語は特に難しいという意見がありますが、これについてどう思いますか。

a	特に難しい	56人	42.1%
b	やや（少し）難しい	65人	48.9%
c	あまり難しいと思わない	11人	8.3%
d	どちらとも思わない	1人	0.7%

aの「特に」かbの「やや」かの違いはあるが、いずれにしても敬語が難しい、と考えている人が91.0%にのぼっている。全体の割合で「やや難しい」と思う人が、「特に難しい」と思う人より6.8%多いが、これを学習歴の長さの別にみると表2のようになる。

表2 学習歴と難しさ

学 習 歴	特に難しい	やや難しい
半年～1年	35.7%	64.3%
1年～2年	56.4%	43.6%
2年～3年	36.8%	63.2%
3年～	47.9%	52.1%

学習歴の長短と難易の感じ方とは関連がなさそうである。つまり長く学習した人の方が習熟度も高く、したがって敬語についても難しいと感じる割合が減るのではないかと、この予測は、ここでは外れ、学習歴が最も短いグループで「特に」より「やや難しい」の方が多くなったり、3年以上ではほぼ同数であったりとなっている。学習歴が長くなってもなかなかマスターしきれないということか、あるいは学習歴の短いころはその本当の難しさがわからなかったのが、長く学習するにつれ難しさがわかってきたということなのだろうか。

母語別にみるとどうなるか。回答者の数の比較的多い母語のグループを(1)日本語の敬語と類似の敬語をもつ韓国語を母語とするグループ(2)中国語グループ(3)インドネシア語・マラヤ語グループ、と大まかに分けて、それぞれのグループに属する人たちの日本語の敬語に対する受けとめ方に違い

があるかないかをみている。

	a 特に難しい	b やや難しい	c あまり難しいと思わない
韓国語グループ	8 32 %	15 60.0%	2 8.0%
中国語グループ	34 51.5%	25 37.9%	7 10.1%
インドネシア語 マレーシア語グループ	9 40.9%	12 54.5%	1 4.5%

各グループの特に難しく感じている人の率を比べると①中国語グループ②インドネシア語、マレーシア語グループ③韓国語グループの順である。「やや難しい」「あまり…」を合わせたものの順は「特に…」の逆で韓国語グループが1位になっている。これは韓国語に日本語の敬語の体系に類似したものがあるからであろう。インドネシア語グループが次に来ているのはインドネシア語を母語とする人に、複雑な敬語の体系が存在するジャワ語・スンダ語も知る人がいるからかもしれない。

中国語グループに「特に難しい」と感じる人が最も多いのも、中国語には日本語の敬語に類似したものがないからだと考えられる。

質問2 どういう点が難しいと思いますか。

敬語が難しいといっても、主として学習により頭で理解し自分で使い分ける段階と、相手との関係を適確に把握しその場に合わせていく段階と大きく分けられる。

選択肢のa、bは前者の段階での難しさでc、dは後者の段階での難しさである。

まず選択肢ごとの実数の比率を示す。回答者は質問1でc、dと答えた人を除く124人だが、複数回答を認めているので100%を超える。

a	b	c	d	e
36 29.0%	46 37.1%	85 68.5%	45 36.3%	13 10.5%

話者として敬語の範疇の中の尊敬語と謙譲語の使用については、bの謙譲語を使うことを難しいとする回答がaの尊敬語を難しいとするより多く、この2者だけを比べると46:36になっている。すなわち、bはaの1.3倍で、謙譲語の使用により難しさを感じていることがわかる。bを選んだ上にeの欄に「謙譲語は私にはすごく難しい」と書いた中国人学生もいた。

さらに、敬語が難しいのは、cの「相手との関係で場面により使い分けること」とする人が85人68.5%を占め、dも45人36.3%と、語の理解よりも関係とその適応に苦慮している姿が浮かび上がってくる。ここに敬語の語のレベルでは一語の教育のレベルではとも言い換えられよう一覆い尽くされない問題が大きくクローズアップされてくる。相手との関係をすばやく判断すること、またその場の状況を正確に把握すること、そういった能力は言語教育によるよりも環境、経験、感性などの要因がより大きくその形成に作用すると思われるのである。(ただし、最近では、言語教育の領域に、このような言語外的能力を含めて考えることが増えてきているが。)

つまり、従来の枠での教育により、学習により獲得できるもの以外のスキルが敬語には求められることが、敬語を難しいと感じさせる大きな原因であることが、これらの回答から推測される。

なお、質問2に関してeの「その他」として記述されたものを2、3紹介しておく。

1. 書き言葉と話し言葉の区別が難しい。(韓国)
2. 手紙を書くときの敬語が難しい。(オーストラリア)
3. 特別の場合、結婚式披露宴などの挨拶が難しい。(中国)

質問3 日本語の敬語について、いろいろな意見があります。あなたはどのようにお考えでしょうか。

敬語についてどう考えているか、自由記述式にするのが最も本当の意見



に近いものが得られるだろうが、回答者の負担を減らすために、いくつか選択肢を準備した。敬語自身に関するもの a、b、c、d と、e 敬語より内容、f 敬語で人を評価しない、の敬語の状況に関するものを示した。それ以外は g に書き入れてもらうことにした。

まず、それぞれの回答数と比率を示す。

a	b	c	d	e	f	134人回答 複数回答
54 40.3%	24 17.9%	44 32.8%	24 17.9%	53 39.6%	44 32.8%	

最も多いのが a の「敬語はもっと簡素化したほうがいい」で、それとほぼ同じに 2 番目が e 「敬語よりも話の内容の方が大切がたら敬語をあまりうるさく言わない方がいい」である。3 番目が c の「敬語は日本語の美点だからもっと大切にされた方がいい」と、f 「敬語を上手に使えなくてもそのことで人を評価しない方がいい」が同数であった。

a、d、e、f のいずれかを回答した人と、c を選んだ人は意見を異にすると考えられ、前者は敬語自体やそのあり方に批判的であり、後者は肯定的な見方である。そこで134人のうちの批判派と肯定派の割合を比べてみる。なお a、d、e、f のいずれかと b、c のいずれかと両方選んでいる人は除く。

批判派=65人 71.4%

肯定派=26人 28.6%

批判的な意見の持ち主が肯定派の3倍近くいるわけである。その中には e、f と答えている人も多く、敬語が難しいからどうするかという観点ではなく、敬語そのものを表現の内容と区別し、その外部要素である敬語に精力を使い果たすことは避けたい、また自分たちを敬語で評価してほしくないとの願望がここには窺われる。

g に自由に記述した人も多く、その中で a—f のどれにも属さない意見

を紹介する。

1. 相手に対して心からのものであるべきだ (中国)
2. 使っている人が本当に心から相手を尊敬するのでなければ、上と下を区別する、階級をつくる敬語をやめてほしいです。「…ます」「…です」の形だけ使ったほうがよいと思います。皆平等ですから。(台湾)
3. 外国人として他国の言語について言わない方がいいと思うが、もし日本人の中でも敬語について改善すべきだという世論があったら少し整理する必要はあると思われます。(韓国)

質問4 日本語を教わる時の敬語について、どうお考えですか。

学習者たちの敬語を学ぶ側としての希望を問うためのものである。

a	b	c	d
61 45.5%	60 44.8%	49 36.6%	21 15.7%

bができるだけ詳しく教わりたいとするもので、他は簡単に、もっと大切なことに時間を割いてほしい、など簡素を望む方で、ここでも詳細派bと簡素派a、c、dに分かれる。

bのみを選んだ人と、a、c、dのどれかを選んだ人を比べてみる。

詳細派 46人 39.7%

簡素派 70人 60.3%

詳しく教わりたいが約4割、簡素化して教わりたいが約6割で、ここでも簡素化の方が優勢である。ここでの回答が質問1の敬語の難しさの認識の度合と関係があるかどうかを、質問1で敬語がa「特に難しい」b「やや難しい」c「あまり難しいと思わない」のどちらに答えているかとクロスしてみている。

「詳しく教わりたい」の46人中

a	b	c
17人 37.0%	21人 45.7%	8人 17.4%

aの「特に難しい」37.0%に対し、それほど難しくないと考えるb、cが63.1%である。次に、簡素化をのぞむ70人中では

a	b	c
35人 50.0%	32人 45.7%	3人 4.3%

で「特に難しい」のaと、それほどでもないと考えer b、c合わせたものと同数である。

このことは、敬語が「それほど難しくないと考える人だから精神的に余裕があり、さらに詳しく教わりたいと希望すること。

「特に難しい」と考える人にとっては、難しく大変だから簡素化が望ましいという意見につながっていくことを示している。つまり敬語に対する難易の認識の差によって「より詳しく」か「より簡単に」かへ分かれていくということである。

次に今回の対象134人中の31人の日本語教師をしている人に、教える場合について問うた質問4'との関連をみる。質問4と同趣旨の選択肢を準備したが、質問4が「教わる敬語」であるのに対し質問4'は「教える敬語」である。

回答した27人中の内訳は次のとおりである。

a	b	c	d
18人 66.7%	7人 25.9%	10人 37.0%	7人 25.9%

(複数回答)

ここではbの7人が、詳しく教えるべきと考え、他の20人は何らかの制

限を考えている人たちである。詳しく教えるべきと考える7人は質問4でもbを選んでおり、教わる場合も教える場合も「詳しく」で一致している。なお、教える場合は「簡単に」の20人の中の教師の3人は、教わる際は「詳しく」を選んでいて、教わるのも教えるのも「簡単に」という教師は17人ということになる。

また、日本語教師の31人の人たちが敬語の難しさをどうみているか、質問1にもどってみる。

- |                |     |
|----------------|-----|
| a. 特に難しい       | 16人 |
| b. やや難しい       | 13人 |
| c. あまり難しいと思わない | 2人  |

全体でみた際は、 $a < b + c$ であったがここでは $a > b + c$ になっている。学習歴も全体の平均より長く、日本語能力も高いと思われる日本語教師の方が、留学生よりも敬語は難しいと考えている人が多いことがここでわかる。学習歴が長くてもなかなか習得できないこと、また教える立場として新たに敬語の難しさに直面している、ということであろう。

質問5 あなたの今までの経験で、敬語がうまく使えなくて失敗したり、恥ずかしい思いをした例があったら、できるだけ具体的に書いてください。

ここでは、敬語を実際に使ってみて（使えなくて）失敗したり恥をかいたりした経験がある人に、それを書いてもらった。この質問に何らかの回答を寄せた人は71人だった。それらの例をいくつかに分類して紹介する。

(a) 敬語の使い方がわからなくて困った

1. 保証人に電話をかけるとき、どんな敬語を使ったらいいいのかわから

ない。(台湾)

2. 最初のころ自分のことをどういふとき「わたし」といふか、いつ「ぼく」「おれ」といふのかわからなかつた。(インドネシア)
3. 先生と話していて辞書形を使つてしまつた。(マレーシア)
4. 授業中先生に質問するときどういふ形で尋ねればいふか一番困ります。(中国)
5. 目上の人のお礼に対してどうお礼を言つたらいいか迷つた。(ブラジル・教師)

(b) 相手の敬語がわからなくて困つた

1. 父の友達と話したとき、簡単な会話ですけれども、全然わかりませんでした。(相手は敬語を使ったから)(中国)
2. 大学の先生に敬語で話しかけられて答えられなかつた。(中国)

(c) 謙譲語と尊敬語の区別で困つた

1. 尊敬語と謙譲語がメチャクチャになる。(中国)
2. 先生に対して「先生がお願いしたでしょう」と言つた。(中国)
3. 自分の子どもを「お子さん」と言つてしまつた。(オーストラリア・教師)
4. 電話で「お父さんいらっしゃいますか」と言われ「いらっしゃいます」と答えた。(中国)
5. 「あなたのお母さん」「私の母」をうまく使い分けられなかつた。(マレーシア)
6. 自分のまわりの人のことを謙遜しないで尊敬語で言つてしまつた。(韓国)

(d) 「お」「ご」の使い方で迷った

1. 食事のとき食器や食べ物に「お」をつけるかつけないか迷った。(韓国・教師)
2. 名詞には「お」か「ご」をつけた方がいいと思って「つり(=fishing)」を「おつり」と言ったが通じなかった。(韓国)
3. レジでもう一つ袋がほしいとき「おふくろをいただけませんか」と言った。(中国)

(e) 「ございます」の使い方で困った

1. 「ないでございます」と言ってしまった。(マレーシア)
2. 「先生でございますか」と言ってしまった。(韓国)

(f) 「あげます」の使い方で困った

1. 「私買ってあげます」と目上の人に言った。(韓国・教師)
2. 目上の人に物を与えたいときどういったらいいかわからない。(イギリス・教師)
3. 「あげる」の使い分けが難しい。(韓国・教師)
4. 授受関係の敬語が難しい。(中国)

(g) 敬語を使いすぎて失敗した

1. もとの先生に礼状を書いて、つい敬語の過剰使用で肝心な意味内容を十分伝えることができなかった。(中国)
2. 営業をやっているお店の店員などにも敬語を使いすぎて、不自然になった。(韓国)
3. 日本人の友だちに「かしこまりました」と言ったら「そんなに敬語を使わないでください」と言われた。(韓国)

4. 自分が日本人の友達(目上の人)に敬語を使うと、相手も急に気をつけて敬語で話しかけてきた。そして話している雰囲気はいちだんと冷たくなった。すごくショックだった。(香港)

(h) 敬語が気になると話せなくなる。

1. 敬語かどうか考えだすと話し合いができなくなる。(韓国・教師)
2. いつも心細くて口をきく前に再三思案しなければならず、とても気になっています。(中国・教師)
3. 目上の人との会話中で敬語を使うべきところ、敬語が思い出せずためらってしまうことがある。(中国)

質問6 敬語をうまく使えてよかったと思う経験があったらできるだけ具体的に書いてください。

質問5と同じく自由に記述してもらったのだが、質問5では71人が何らかの経験と書いたのに対し、ここでは37人が記入していた。つまり失敗や恥ずかしい経験の方が、よかった経験の2倍近くあったということである。

以下に「よかった経験」を紹介する。

1. 電話でうまく話せた。(中国)(台湾)
2. 面接のときうまく使えて合格しました。(中国)
3. 自己紹介のとき。(マレーシア)(中国)
4. 大きなイベントやパーティなどで人前に出てあいさつをするとき。(インドネシア)
5. 先生との会話がうまくできた。(韓国)
6. 「お目にかかります」(韓国)「～と存じます」(韓国)「～と申します」(インドネシア)「～させていただきます」(香港)(韓国)がうまく使えた。

7. やさしく見える。(韓国・教師)
8. 目上の人、お年寄りの人に喜んでもらった。(ブラジル・教師)(韓国)
9. 職場のお客さんに向かって敬語を使って成功した。(タイ)
10. 何かをやってもらうときうまくいくことがある。(韓国)

以上、簡単なアンケートで(複雑に細分化すると回答の質も落ちるのでやむをえず)しかも回答者の数も134名と十分とは言えない調査で、外国人の敬語の意識を代表してはいないが、その限度内での傾向を報告した。質問1「やや難しい」「特に難しい」の違いにしても、どこで線をひいているのか回答者の意識の中までたどることはできないし、質問3も敬語体系すべてを否定するような意見は準備せず、現状肯定から出発した選択肢であり、一方でやや誘導的な選択肢も混ざったかと思われるが、その範囲内でも学習者たちの日本語の敬語が今より簡単なものであってほしい、簡素化して教わりたい、教えたい、の願いはどこからもよみとれる結果を得た。

学習者との対応の中で日本語教育を進める以上、日本語の敬語の体系だから、日本語を学ぶ以上はそれも全てという一方的なおしつけはいけない。学習者のニーズや希望、期待を具体的に把握した上で指導する内容、レベル、方法などを考えていかななくてはならない。そのための本格的な基礎的調査の必要性を、今回小さな調査をした結果として改めて感じている。